

# 全国一般全国協

1992年10月9日 No. 6

全国一般労働組合全国協議会

編集発行人 遠藤一郎

東京都港区新橋3-21-7松本ビル

TEL 03-3434-1236

FAX 03-3433-0334

## 日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対する 10月国際会議を成功させよう

九月八日、政府はPKO法の実施を閣議決定し、六百名を越える自衛隊（日本軍）のカンボジア派兵を正式発表し、既に先遣隊を派遣した。これで、戦後四十七年間、死文化しつとあるとはいえず、憲法九条の理念の下で海外に出る事のなかった日本軍（自衛隊）がアジアに派兵されることになった。表向きは「国連」からの要請による平和活動ということではあるが、その衣の下に見え隠れするものは鎧であることは確かである。

日本の帝国主義としての復活が、国民の多くの

反対を押し切ってまでもPKO法を強行成立させ、自衛隊（日本軍）を海外派兵させようという、政府の攻撃の新たな段階に至った。これと正



9・27大久保基地包囲闘争

- 【10月】
- 20日(火) ●各国代表団歓迎セレモニー・関西
  - 21日(水) ●国際会議本会議(第一日)  
10時~17時 [京都府城陽市総合運動公園内会議室]
  - 22日(木) ●国際会議本会議(第二日)  
10時~17時 [京都府城陽市総合運動公園内会議室]
  - 24日(土) ●第一分科会・第二分科会(各国報告)  
10時~17時 [大阪PLP会館]  
●第四分科会(日本の侵略—過去と現在)  
18時~21時 [大阪PLP会館]
  - 25日(日) ●各国代表団歓迎セレモニー・関東  
19時~21時 [海員会館]
  - 26日(月) ●国際会議本会議(第三日)  
10時~17時 [東京都勤労福祉会館]
  - 27日(火) ●第一分科会(各国報告) [港区勤労福祉会館]  
●第二分科会(各国報告) [浜町会館]  
10時~17時  
●第三分科会(日米軍事同盟と日本軍の海外派兵をめぐる具体的課題)  
18時~21時 [港区勤労福祉会館]  
●第五分科会  
(日米の支配とたたかう第三世界各層の闘い)  
18時~21時 [浜町会館]
  - 28日(水) ●国際会議本会議(第四日)  
10時~17時 [港区勤労福祉会館]
  - 30日(金) ●国際会議本会議(第五日)  
10時~17時 [東京都勤労福祉会館]
- 【11月】
- 1日(日) ●国際連帯集会(関東)  
14時~18時 [幡ヶ谷区民会館]
  - 3日(火) ●国際連帯集会(関西) 13時~ [エル大阪]

面から対決する反戦平和闘争の飛躍を、アジア人民と連帯しつつ、準備しなければならぬ。すべての労働組合に、眼前に迫った「日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対する十月国際会議」への結集を呼びかける。十月国際会議には、すでにアジアの十三の国・地域（フィリピン、韓国、台湾、マレーシア、東チモール、インドネシア、バングラディシュ、インド、ネパール、オーストラリア、ニュージーランド、香港、日本）からの代表が参加することが確定した。そして、日本と共に十月国際会議を主催するフィリピンからは、BAYAN、KMU、KPMなど十団体の代表が、来日する事になっている。

まさに十月国際会議は、アジア各国の人民が一堂に会し、日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対する国際共同闘争の道をつくりだしていく画期的な機会になろうとしている。

# 海外自衛隊 派兵阻止

## 9.27 人間の鎖で 大久保基地を包囲

都 京

九月二十七日、「自衛隊の海外派兵に反対する平和行動実行委員会」の呼びかけによって、京都の大久保基地からの自衛隊のカンボジア出兵を阻止するために、全国から七十団体二千五百名の労働者・学生市民が大久保基地に集結した。

午後一時から開始された集会では、まずJPM 90より、台湾労働人権協会から寄せられた連帯

のメッセージが読み上げられ、フィリピンなど多くのアジア諸国からのメッセージが届いていることが紹介された。次いで発言に立った全労協の山崎道人議長は、PKOへの自衛隊派兵を阻止するために内田選挙をたたかったことを報告し、全労協は引きつづきカンボジアへの出兵とたたかい抜くという決意を表明した。つづいて、関西共同行動、京都共同行動などの関西から参加した諸団体、北海道・東京・名古屋・広島など全国から結集した諸団体、日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対する十月国際会議日本実行委員会などが発言をおこなった。そして、午後二時からのデモ貫徹した後、大久保基地を包囲する「人間の鎖」が行

市民の意思を眼前の自衛隊に突きつけるものであった。全労協に結集する労働組合は、労働者前段集会を全国の仲間とともに開催し、この日のたたかいを市民や学生の隊列とともに最後までたたかい抜いた。

# 全国協も総力動員 反PKOの闘い 各地に広がる

初初PKO海外派兵部隊である陸海自衛隊が多くの市民の抗議の中、広島・呉を出航した九月十七日、東京においては日比谷野音で「緊急全国集



9・17集会で挨拶する内田弁護士

## 9.17 緊急全国集会

三〇〇〇名結集

東京

会」が三千名の結集で開催された。集会では、斉藤一雄衆議院議員や田英夫参議院議員、ダグラス・ラミスさん、韓国太平洋戦争犠牲者遺族会のハ

ン・ムンスさん、平和遺族会、反天連の代表が挨拶。先の選挙で連合候補を破って当選した広島県の栗原君子議員は「今朝、たくさんの抗議のゴムボートのかなか機動隊に守られて補給艦、輸送艦が出ていった。広島からまた戦争がはじまったと思うと涙が出てしかたがなかった。PKO法は三年後に『見直し』と言っているが、一層強化されるだろう。粉砕に向けて頑張ろう」とアピール。内田

# アジア人民の連帯 で海外派兵阻止を

## 9・30アジアフォーラム開催

全労協の呼びかけで、九月三十日アジアフォーラムが開かれ、全国協からも多数参加した。このフォーラムにはアジア四カ国から代表が参加、それぞれから自衛隊の海外派兵が、かつての侵略を想起させ、人民にとって脅威になっていることが報告された。フォーラムでは、アジア人民の連帯で海外派兵を阻止することの必要性を総意で確認、自衛隊のカンボジア派兵を即時撤回するよう、政府に申し入れることとなった。

雅敏弁護士も「戦後補償が解決されてこなかったのは戦争責任を曖昧にしてきたからであり天皇の戦争責任に突き当たる」と発言。また演壇を見やりながら「斉藤一雄さん、外口さん、長谷さんとともに選挙を闘えなかったのは残念。真の護憲のため闘い続けよう」とも発言。集会は全労協山崎議長長の団結頑張ろうを締め、デモに出発。六本木の防衛庁では何度も抗議のシユプレが続いた。

# 民間社会福祉施設労組の結集軸 を 目指して！

## 全国一般東京労組福祉部会

昨年六月、東京労組に結集する福祉施設労組の連絡協議体として福祉部会が発足し、現在九分会百三十名が結集している。また、最近一〜二年で五分会が新たに結成され更に新規の相談や結成準備が相次いでいる。今後とも、全国一般への期待は大きい。

長い間、福祉は恩恵と奉仕の対象であった。民間の福祉施設の多くは、いまだに家父長的な運営・長時間労働・低賃金が

当たり前で、働くものの権利の主張や運営を批判することは、様々な嫌がらせや村八分・依願退職・解雇につながり、その前に多くの仲間が自ら職場を去っていく。福祉の課題は多様な広がりを見せている。一方で、臨調・行革路線の浸透で民間社会福祉施設は大きな転換期を迎えようとしている。

我々の前に立ちふさがる壁は大きい。しかし、労働組合の必要性は益々高まってきているのである。誰でもが安心して長く働ける労働条件の確立とノーマライゼーションの理念に基づく施設の改革を東京労組福祉部会は目指していく。

また、関西の組合を中心とする福祉人材確保の内容充実を求める厚生省

## 各戦線での 闘いの紹介

「休暇への圧力やサービスマン業の強制はやめてください」「女性だけにお茶汲みをさせるのは差別です」

私は富国生命八王子支社でそんなあたりまえのことを言ってきただけなのに「言いたいことばかり言って協調性がない」

協力体制を更に進めながら、民間社会福祉施設労組の結集軸を目指していく。新しい組合も多く、若い組合員が多いので体は小さくても志は大きく持ちつづけていく。また、薬づけ医療と乱脈経営から入居者の生活と権利を擁護した事に対し、経営側から組合への一千万円の損害賠償裁判が続いている特養老人ホーム、グリーンウッド分会への不当攻撃を全力で跳ね返していく決意である。

## 富国生命 ●●● 職場復帰まで闘う

### 全国一般東京労組 望月すみ江

「頭がおかしい。精神異常者」と罵られて続け、三人分の仕事をさせられたり、社内暴力にあったりで、ついに昨年二月肩腕障害権病、休業を余儀なくされました。富国生命はケイワンの責任を認めないばかりか、ようやく仕事ができるまでに

回復してきた私を、職場に戻そうとしません。このまま休業期間切れ自動退職となるのを待つ構えですが、私はそんなつもりはありません。

九月一日から八王子支社への就労闘争を開始しています。本社へは東京

## 労組紹介

### 小原流本部職員労組

生け花の小原流の組合です。昔のように若い女性が無数に「修行」するという時代ではないが、現在でも、発行済「許状」が膨大に本部登録されている。組合員は委員長以外全員女性で、本部でカード点検やニュース発行などにたずさわっている。

本部は六甲山麓の御影に「芸術参考館」とともに、そのサイケデリックな建物内にあり、カリスマ的威容を誇っている。だが、内実は、封建的元制度と資本主義的営利

総行動での訴えをしていますが、六月には公安がうるついていたたり、九月には黒塗りの車を数台本社前に並べて宣伝カーの邪魔をしたり、児童めいた嫌がらせが続いています。みなさんのご支援をお願いいたします。

が交錯し、旧くから争議をになってきたため労働条件は良いものの、労組としてのスタンスは甘くない。

近年、移転とコンピュータ導入が提起されたが、組合は全労協やゼネラルユニオンに加盟し闘いを強め、十月に神戸ハーバーランドへの進出で合意に至った。全国一般全国協に結集したわが組合は、南部地協に加盟している東京の小原流本部労組と改めて出会うことができた。よろしく連帯を。

(文責・山原)



# 団体 友誼 闘争 紹介

## 教育にかかわる全ての分野 で組織化に取り組み 各専労協

各種専修学校、塾や幼稚園等、従来の教育労働戦線において等閑視されてきた分野の組織化をかね、微力ながらも「各専労協」を発足させてから一〇年になります。

発足にあたっては、四年以来の専門学校関係組合の共闘組織を母体とし、これに当時の全国一般学校部会が合流して実質的組織形成がされました。現在では、関西、関東を中心に一〇都道府県にまたがり組織分野でも大学、高校、専門学校、塾、カルチュア等から幼稚園、保育園、福祉、教育関連出版までおよそ教育にかかわるすべての分野を小なりといえども総合的に網羅しています。しかしながら、大学、高校だけではなく、各種専修学校や塾等圧倒的未

組織分野をも組織対象としている私たちには、組織化即争議や独立組合が争議化して各専労協へというケースも珍しくはありません。まさに全国一般的世界といふべきでしょう。大事なことは圧倒的未組織の世界に誕生

した数少ない組合の一つ一つを勝利させ定着させて、総体としてこの分野の教育労働条件向上を勝ち取っていくことだと考えています。以下にオプ加盟校を含めた現在の主な争議団をご紹介します今後とものご支

### 不当解雇撤回・原職復帰

#### まで闘う 京都コンピュータ学院労働組合

職員達の胸は期待でふくらんだ。がしかし、初代学院長の組合嫌いはすさまじく、労組初代委員長解雇の他数度にわたる地労委等闘争の中で管理職をも含む多くの仲間が退職していった。

そして一九八七年には初代学院分割がされ(息子・妻・法人立)組合は

息子雇用部分のみとして爾来国鉄型攻撃が始まる。一九九〇年十二月、七名の組合員を研修↓出向の挙げ句に懲戒解雇を強行。直ちに地労委地裁へ救済申立をしいずれも全面勝訴を勝ち取った。

そして組合は学内に三名を残すのみ(約八〇名中)となっていたが、不

最先端というイメージとは裏腹に劣悪な労働条件、超ワンマン経営をなんとかしようとい九八五年に労働組合を職員の半数以上を組織して結成、「これで何とかなる」と

援をお願いする次第です。

【埼玉】 ワタナベ学園 報徳与野高校  
【東京】 千代田学園 桐杏学園  
【神奈川】 大磯教育研究会  
【京都】 京都コンピュータ学院  
【福岡】 公務員ビジネス 専門学校

当日に突然「本年七月二日、本学院は初代学院長の七回忌を迎えた。これをもって学院の表明けと闘争支援する会」(略称)を結成し、不当解雇撤回闘争を強化してきた。

ところが学院は、その支援の広がりをおそれてか、残りの三人に学外研修の業命書を発し七月十日に突然「本年七月二日、本学院は初代学院長の七回忌を迎えた。これをもって学院の表明けと闘争支援する会」(略称)をつきつけ(喪明け解雇)三名を解雇。先の一名は現在中労委で再審中で十月二六日(月)は三回目結審予定。三名の地労委闘争も始まった。

#### 労働時間実態調査にご協力下さい

すでに各単組へ配付されていると思いますが、十一月の労働省交渉の資料にしますので今月中にご返送下さい。調査用紙が入用の場合、全国協組合事務所に請求ください。

#### 機関紙紙面の充実の為に協力下さい

- ①機関紙に対するご意見、ご批判をお寄せください。
- ②各単組・加盟組合単位の機関紙をご送付下さい。
- ③機関紙の題名「全国一般全国協」を改めたいと考えています。ふさわしいネームを考えてください。

#### お知らせ

全国協ももうすぐ一才になります。機関紙も六号をかぞえるに至りました。定期発行を心掛けています。内容も少しずつ、「読めるもの」になってきたと自負しています。皆さんのご協力を得て、更に、内容のあるものにして行きたいと考えています。